

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目

世界史

総括

試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目 120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

論述の分量は昨年の総字数 900 字から 960 字に増加 (第 1 問分 60 字)。第 3 問の解答数は 11 から 10 に減少。

論述・第 1 問の字数が増加したため、論述部分の配点は昨年に比して増したと思われる。

全体として前近代の出題が増えた。

作問の傾向が過去 3 年とは異なり、第 1 問は幅広い解答が想定される、採点が大変なのではないか。

〈特記事項・トピックス〉

第 1 問の指定語句が 9 個から 7 個に減った。

第 3 問は 18 世紀末から 20 世紀前半の宗教政治結社を出題したが、第 1 問は 18 世紀前半まで、第 2 問は古代から中世と前近代に大きくシフトした。

第 1 問は政治史中心、第 2 問は都市にまつわる社会経済史。

地域的にはアフリカ・中南米を除いて、満遍なく出題されている。

〈合格への学習対策〉

1000 字近い論述を時間内に書くことは受験生にとっては容易にできることではなく、基本事項が速やかに思い出せないとき、設計図を作って文章化する練習は早くからやってもらいたい。基本事項を身につけるには教科書・地図・年表・資料集をしっかりと使うようにしよう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第 1 問	論述 (30 字× 20 行)	18 世紀前半までの国家と宗教	政教両権の歴史的関わりがテーマ。 日本国憲法の条文は信教の自由を認めた近代国家の原則を示したに過ぎず、リード文も短いため、従来のようなヒントになっていない。 このため論述解答の時代範囲の設定が難しい。特に何を具体例とし、どの時代から書き始めるかで答案内容が大きく変わってくる。指定語句が減った結果、かえって解答に幅が出ることが予想される。	やや難
第 2 問	論述 30 字×2 行×6	世界史上の都市	オーソドックスな語句説明問題だが、短字数なのでまとめるのが難しいか。	標準
第 3 問	記述	18～20 世紀前半の宗教政治結社	問 9 のベトナム光復会以外は教科書レベルの基本事項。問 6 の全奉軍などの漢字は間違わないように。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を 5 段階 [難・やや難・標準・やや易・易] で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。